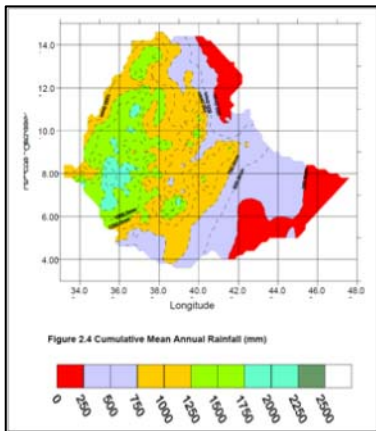


1. 概要

- 国土: 1,104,300km² (日本の約3倍)
- 人口: 8,071万人
- 首都: アディスアベバ、人口約300万人



エチオピアの降水量



エチオピアの主な流域

2. 特徴

- 地理・気候
 - 国土の大部分がエチオピア高原を中心とする高地
 - 熱帯モンスーン気候であるが標高によって異なり、主に3つの気候ゾーンに分かれる。
 - エチオピア高原の西部および東部の標高2400m以上の地域は冷涼地域で気温は7~12℃、
 - 標高1500から2400mの温帯地域は移行地域
 - 標高1500m未満の熱帯地域の気温は25℃以上
- 経済情勢
 - 農業が雇用の約85%、国民総所得 (GNI) の約45%を占めている一次産品依存型経済
 - 主要輸出品はコーヒー、油料種子であり、国際市況や天候に影響を受けやすい環境にある
- 水資源
 - 豊富な水資源を有する国であるが、ほとんど開発されていない。国内には12の主な流域がある
 - 主に4つの水系がある: 「ナイル川水系」「Rift Valley水系」「Shebelli-Juba水系」「北東海岸水系」
- 水利用
 - 農業用水に93.6%、水道用水に5.9%、工業用水に0.3%となっており、ほとんどが農業用水に利用されている
 - 人口あたり取水量は80.48m³/年となっており、日本(695.8m³/年)の約9分の1と少ない
 - 村落地域: 飲み水のほとんどを地下水に依存
 - 都市: 水道用水が供給されている地域においては、通常河川の水がつかわれている

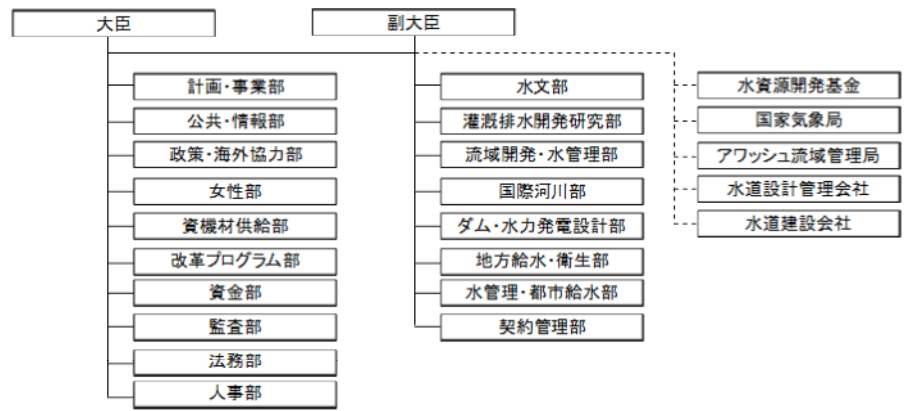
エチオピアの水に関する主な動き

3. 上下水道事業

- 上水道
 - 基本的に公営事業として位置付けられ、水道事業における受益者負担の基本方針が徹底されている
 - 村落給水事業は、州政府が中期計画を策定・実施している
- 下水道
 - 普及率が7%となっており、都市域においても下水道に接続されている人口は限られている

4. 水に関する行政機関

- 水資源省：エチオピアにおける水資源管理を担当する組織である
- 水道設計監督公社：施設関連の基準を作成している

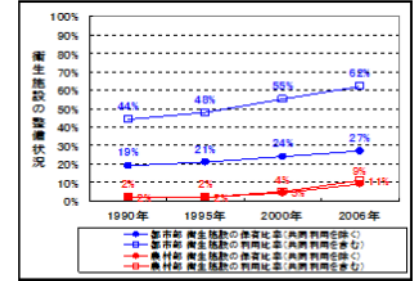
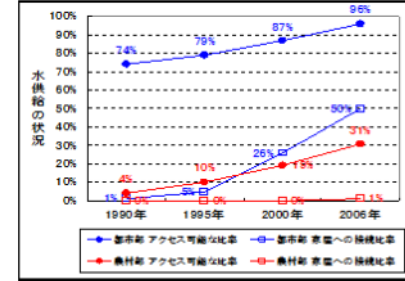


5. 水に関する政策

- 貧困削減計画
 - 2002年9月IMF/世界銀行はエチオピアの貧困削減戦略書である「持続発展可能な開発及び貧困削減計画」を採択
 - 水分野は灌漑、水力発電、流域開発、地下水開発を含み、給水率の向上を住民、行政、ドナー、NGOなどの広範な参加者が参加し達成することを目標としている
- 水分野開発プログラム
 - 水セクター開発計画：水資源開発ポテンシャル評価に基づいて、給水、灌漑等の各サブセクターにおける短・中・長期目標を設定し、投資計画を含むアクションプランを提示している
 - 持続的な給水開発と維持管理には裨益住民に応分の負担を課すことが基調となっている
 - 給水の全国の普及率目標を2016年には70.9%としている

6. 課題とニーズ

- 総合水資源管理
 - 国家政策において水セクターは重要課題の一つ
 - 頻発する干ばつや洪水に対処
 - 経済発展のためには水資源の有効活用が必要
- 村落地域における安全な水供給および衛生施設の確保
 - 安全な水へのアクセス率の現状は42%、特にサブサハラなど農村地域においては31%と極めて低い
 - 人口の約85%以上を占める村落部の住民は、生活用水の確保に多大な時間と労力を費やさざるを得ず、貧困を助長する一因
- 都市給水事業の拡張・改善
 - 水道事業の無収水率は40%と比較的高いため、漏水対策等の強化も必要



エチオピアにおける水供給の状況と衛生施設の整備状況[2006年:WHO]